

第30回イオン環境活動助成事業 下期報告書

公益財団法人イオン環境財団の助成金に係る事業について、3月31日までの活動を報告いたします。

2022年3月31日作成

管理番号	3 0 - 1 2 8 5	※管理番号は覚書をご確認ください。	
団体名	特定非営利活動法人 アジアの誇り・プレアビヒア日本協会	代表者名	森田 徳忠 
報告者氏名	伊藤 一正 	電話番号 (報告者)	03-5259-5070(伊藤一正)

1. 活動の実施状況

主題・種目	カンボジア王国プレアビヒア州エコビレッジ地区環境保全教育活動
報告対象期間	2021年10月1日～2022年3月31日までの活動(下期)
【活動の概要】	
<p>活動内容： プレアビヒア州エコビレッジは世界文化遺産プレアビヒア寺院を保護保全する地域としてカンボジア政府により開発を指定され、2009年より4,500haに約2,000世帯の入植が始められたが、新興開発地域であるため住民の共同意識が希薄で、また、主産業の農業も進展せず、多くの離農者を出し、今日では世帯数も約1,000世帯に減少し、地域開発に苦慮する貧困地域である。この地域の住民の連携を育成するために、大規模農業施設や公園計画を住民共同で計画し、住民と共に地域づくりが進められてきています。当植樹活動は住民主体での環境創造活動で、住民活動として地域公園(森林公園、果樹公園、花畑公園)の開発を目指している。当初計画では、7月に植樹祭を開催し、8月の環境研修会と植樹を通じた地域づくりを目指す計画であったが、2020年3月からのCOVID-19による緊急事態発令により日本からの現地訪問が制限された。このため、月2回の準備会合(日本とのテレビ会議方式)により現地との連携を行い、上期の5月には試験植樹を実施した。9月から継続して維持管理を実施するとともに、現地との協議(テレビ会議)による、維持管理(給水、追肥)の協議を実施。11月19日～20日にはJICAプノンペン事務所職員4名が来訪し、視察を受けた。また12月と2月には協会の職員が日本から渡航し現地の植樹結果と育成状況を確認。さらに、乾季に入って12月に追加植樹区域の整地を行い、1月上旬と2月下旬に住民主体で植樹を実施。今後も、現地の状況を勘案しながら、テレビ会議を通じて継続した維持管内容を確認し、樹木の活着を確認して行く。</p>	
開催日時：	2021年12月22日～2022年1月4日追加植樹実施
開催地：	エコビレッジ・エコパーク地域
植樹本数：	1,000本
樹種：	メンガ、ケランジイ、ゴールデンシャワー、ジャカラнда、タバクーナ等
参加人員：	24名(地域住民22名、現地スタッフ2名)
植樹面積：	約2ヘクタール
開催日時：	2022年2月17日～2月18日第2回追加植樹実施
開催地：	エコビレッジ・エコパーク地域
植樹本数：	1,500本
樹種：	メンガ、ケランジイ、ゴールデンシャワー、ジャカラнда、タバクーナ苗木
参加人員：	38名(地域住民35名、現地スタッフ3名)
植樹面積：	約3ヘクタール

【準備活動】

10月15日(金)

計画:苗木の生育状況点検

実績:ZOOMIによる打ち合わせ実施(第12回)。現地スタッフ、農民が参加。現地での生育写真を基に、5月植樹苗木の活着状態が良好なことを確認。雑草除去計画について指示。

10月30日(土)

計画:植樹後の養生維持管理(雑草除去)

実績:ZOOMIによる打ち合わせ実施(第13回)。現地スタッフ、農民が参加。現地生育写真をもとに、雨季の後半の維持管理作業(除草、追肥実施、枯渇苗木処理)を協議。11月にJICAカンボジア職員が周辺視察に来報の計画を協議。

11月19日(金)

計画:給水試験実施

実績:JICAプノンペン事務所スタッフ4名が現地訪問。植樹活動、農業灌漑事業、作付事業を視察。先に整備した給水システム(9月に設置した植樹管理用の井戸、植樹区域に合わせて給水用塩ビパイプ)を通じた給水を実施。

11月30日(火)

計画:実行委員会開催(苗木生育点検、給水施設機能点検)スタッフ1名派遣

実績:ZOOMIによるミーティングを開催(第14回、12月2日開催)。本部スタッフが12月7日～9日にかけて現地訪問を予定。乾季植樹を12月末～1月初めに計画することを協議し合意。約1,000本の森林苗木を調査購入し、植樹を村民中心で実施する事とした。

12月7日(火)

計画:維持管理給水活動

実績:東京本部からスタッフがタイ・バンコクを経由して現地入り。出発前、バンコク到着時などでPCR検査並びに陰性確認を経てプノンペンから現地に移動。現地スタッフとの会議、農民(約20世帯)との意見交換を実施。毎週の給水活動の確認、12月末～1月の現地植樹活動計画を確認。12月16日にシムリアップにて苗木1000本を調達し、現地搬入後、1月4日に植樹する計画を了承。

12月22日(水)

計画:植樹後の養生維持管理(雑草除去、追肥実施第2回)、維持管理給水活動

実績:5月植樹樹木周辺の雑草除去作業、給水作業、追肥作業を実施。さらに、植樹作業に合わせて、雑草除去、整地作業を12月22日～23日実施(約2ha)。

1月3日(月)～4日(火)

計画:維持管理給水活動

実績:給水作業実施。1,000本の植樹作業実施。メンガ、ケランジイ、ゴールデンシャワー、ジャカラнда、タバクーナ等。農民等24名(地域住民22名、現地スタッフ2名)が参加。

1月15日(土)

計画:維持管理給水活動

実績:ZOOMIによるミーティング開催(第15回)。植樹後の苗木の様子を写真撮影し共有。乾季に入り、地盤の乾燥が強く、毎週の給水実施を指示。給水後の苗木の活着状況確認で、2月中旬に再度日本から担当者が現地訪問の計画を伝達。

2月15日(火)

計画:維持管理給水活動

実績:ZOOMIによるミーティング開催(第16回)。1月植樹後の苗木の様子を写真撮影し、現地と東京で共有。

2月16日(水)～17日(木)

計画:植樹後の養生維持管理(雑草除去)、維持管理給水活動

実績:2月14日～16日にかけて東京本部スタッフが再度現地入りし、1月上旬に植樹した苗木の状況を確認。定期的な給水を継続していることにより、安定して活着していることを把握。しかし、5月に植樹した苗木のうち、乾季に入り森林木に20本ほど生育に課題があるものがみられ、給水、追肥などを継続し、安定化を図ることを指示。

2月17日(木)～18日(金)

計画:維持管理給水活動

実績:2月17日に最終植樹活動に向けて1,500本の苗木をシムリアップにて確保。メンガ、ケランジイ、ゴールデンシャワー、ジャカラнда、タバクーナ苗木など。また、2月17日に1haの整地作業を実施し、翌2月18日に、参加者38名(地域住民35名、現地スタッフ3名)で1月に植樹した2haを含み、全体で3haの区域に植樹を実施。

2月28日(月)

計画:維持管理給水活動

実績:ZOOMによるミーティング開催(第17回)。植樹後の苗木の様子を写真撮影し、現地と東京で共有。給水状況、追肥の実施を確認。

3月18日(金)

計画:実行委員会開催(苗木の生育状況確認、活着率確認)、スタッフ1名派遣

実績:ZOOMによるミーティング開催(第18回)。植樹後の苗木の様子を写真撮影し、現地と東京で共有。2月17日~18日の植樹苗木の状況を把握。確実に生育していることを把握。

2. 活動の実施状況が分かる写真に説明を添えてご提出ください。

①全体写真(参加者が写っている集合写真など)



活動日:2022年1月4日
村人参加の植樹活動記念写真

②全体写真(植樹開催後の現地の写真など)



活動日:2022年3月18日
2021年5月～2022年2月植樹区域

③活動写真(個別の活動写真)



活動日:2021年12月16日
苗木の購入とトラックでの搬送

④活動写真(個別の活動写真)



活動日:2022年2月15日
現地スタッフと植樹参加住民協議

⑤活動写真(個別の活動写真)



活動日:2022年2月28日
現地住民、スタッフ、東京本部ZOOM会議

⑥活動写真(個別の活動写真)



活動日:2021年11月19日
JICAカンボジアスタッフ4名来訪。植樹活動を視察

⑦活動写真(個別の活動写真)



活動日:2022年2月17日
第3回植樹苗木(1,500本)購入の一部。

⑧活動写真(個別の活動写真)



活動日:2021年12月22日
第2回植樹(2022年1月)に向けた除草作業

⑨活動写真(個別の活動写真)



活動日:2022年1月4日
第2回植樹実施。エコビレッジ住民による植樹活動

⑩活動写真(個別の活動写真)



活動日:2022年1月4日
植樹作業及び給水パイプからの給水と施肥活動

⑪活動写真(個別の活動写真)



活動日:2021年12月2日
乾季給水用パイプラインを用いた給水活動

⑫活動写真(個別の活動写真)



活動日:2022年1月15日
東京本部スタッフと現地スタッフ及び住民との現地植林会議(ZOOM会議)

補足事項